



会報 No.138 令和2年1月号

## 新年のご挨拶

一社)八王子市私立保育園協会 会長 宮崎 豊彦

新年明けましておめでとうございます。

今年、元号が令和になって初めて迎える年ですが、皆様にとって良い年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年度の国の子ども・子育て会議での検討事項である公定価格の議論が気がかりでしたが、「包括方式」ではなく「積み上げ方式」が維持される方向となりました。また、昨年度の10月から実施された、幼児教育・保育の無償化に伴う給食費の実費徴収では、会員園の皆様のご協力により、月額4,500円で統一化・均一化されましたことに心より感謝申し上げます。給食費の金額については、各市区町村でバラつきが見られますが、4月からの新年度に向けてどのように各地区で推移していくか見ていく必要があります。

新しい時代、新しい年は、私立認可保育園にとって、どのように進んでいくのか、不確かさがこれからも多くでてくるのではないかと考えられます。社会がめまぐるしく変化していく中で、社会に適応できるその基礎を培う子どもを育てる大変さを感じます。

個人を尊重するあまり、集団の中に入ってどうしたら良いのか、どのように接したら良いのか、わからない社会人が増えているようです。

小学生の子ども達が集まっていて、コミュニケーションのない中で個々にゲームをしている姿を見て、本当にこれで良いのかと思わされてしまう時があります。

小学校の新教育要領が4月から始まります。小学校との連携の中で、子ども一人一人を大切にしたい幼児教育・保育についても一度考えてみる事も大事な事かもしれません。個の大切さ、集団の大切さの中で人の温かさを知り、他人を大切に想う心を持った人間に育てて欲しいと思います。そして、自分の好きなことだけをして他人を思いやらない人間に育ててほしくはないと思います。時代が激しく変化してきているので、保育全般について残すべきものは残し、直すべきものは直していかなければならない、その選択も難しいものです。

昨年はラグビーの世界大会が日本で開催され、今年は東京オリンピック・パラリンピックの年です。日本選手の活躍を期待したいと思います。また、オリンピック・パラリンピックの開催によりカレンダーの祝祭日が変わって、体育の日等が変更になっていますので、行事等も十分気をつけてください。

今年も、八王子市の子ども達の為に皆様と共に進んで参りたいと思いますので、ご指導、ご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

山下副会長の開会の言葉により開会しました。続いて宮崎会長より挨拶を頂きました。会長挨拶の中で、東京都民間保育園協会の機関誌「とうきょう民保協」第127号の巻頭言において、「慣らし保育」と「慣れ保育」の記事が出ていることについて、現在、東京都は、保護者や子どもが保育園に慣れていく「慣れ保育」という言葉を推奨したい意向があるとのことで、来年度以降、各園で検討して頂きたいとの話がありました。

## 〈八王子市から行政説明〉

### 1. 避難確保計画の作成について

(保育幼稚園課：大垣主査)

この度、八王子市で洪水浸水要請区域及び土砂災害警戒区域内にある要配慮者利用施設の指定ができたため、指定施設については、避難確保計画の作成と、避難訓練の実施が義務付けられることとなった。対象施設については、別途八王子市から依頼が行く予定。

関連として、先日の台風19号の対応について、保育園には臨時休園のための根拠法令がなく、この度は、保育の必要性のある親がいる場合は開園してくださいと、市から要請を行った。その後、厚労省の全国調査があり、今年度中に国が一定の基準を作るという連絡を市として受けている。国の基準が出来次第、市としての基準も策定をする予定とのこと。

### 2. 給食費の徴収に関わる調査結果について

(保育幼稚園課：大垣主査)

副食費の徴収方法については、口座引落が54園、集金代行業者が20園等となっている。徴収にかかる手数料負担については、園負担が69園、保護者負担が2園（保護者振込のため）となっている。副食費の月額額は、79園が4,500円、1園は6,000円となっている。

運営規定に給食費について盛り込まなければならない件については、令和元年度中に運営規定の改定を理事会で行ってほしい。来年度以降、運営規定に給食費が定まっていない場合は、指導検査の指摘の対象となる。



### 3. 来年度の予算要求について

(保育幼稚園課：大垣主査)

来年度予算については、まだ決まっていない段階。市で予算化するには計画に位置付けて行うため、今回は令和2～4年度の市の計画である「八王子ビジョン2022」の施策番号17「子育て・子育て支援の充実」より説明がなされた。

保育サービスの推進について、計画上決まっているのは、紙おむつ園内処理推進。これは紙おむつのみではなく、布おむつを園で処理している園等、おむつを保護者に持ち帰り処理をさせていない園に対して運営費加算として支払う予定。また民間保育所運営については、宿舍借り上げ支援の対象者を採用後10年目までの保育士に拡充すること、副食費免除については、全ての世帯の第3子の給食費を無償化することとしている。

幼児教育・保育の質の向上における、医療的ケア児支援事業について、現在、打越保育園および公立3園で受け入れ態勢をとっているが、来年度に医療的ケア児の受け入れのためのガイドラインを市として作成する予定。また再来年度以降に、民間保育園で医療的ケア児を受け入れる園に補助ができる仕組みを整えたい。

その他、幼児教育の質の向上を図るため、幼児教育センターの設置と運営を行う事としている。

### 4. 子ども・若者育成支援計画について

(子どものしあわせ課：小野主査)

現在の第3次子ども育成計画が令和元年度で終了



する。この程、令和2～6年度までの素案ができたため、その計画の概要について説明がなされた。

名称は「八王子市子ども・若者育成支援計画」となり、対象がこれまでの、子ども（0～18歳未満）及び妊婦とその家庭に加え、今回から若者（義務教育終了後～30歳未満）も追加して考えていくこととなる。

## 5. 子ども食堂について

（フードバンク八王子：國本代表理事）

現在、八王子市には19の子ども食堂があり、順調に増えてきている状況にある。その子ども食堂が「八王子食堂ネットワーク」という名称でグループ化して3年目を迎えている。

当初は、ご近所の子どもたちや、保護者、高齢者が楽しくみんなで一緒に食事をするというレベルであったが、活動しているうちに子どもたちや保護者の様々な課題が見えてくるようになってきている。こうした課題に対応するため、地域の多種多様なネットワークと連携することが必要であり、食堂の地域拠点化を模索し地域食堂連絡会をつくれなかと協議をしている。

## 〈わらべ保育園から報告〉

（わらべ保育園：櫻澤園長）

11月11日（月）に、散歩中の園児及び職員に自動車が入り込む交通事故があり、事故内容、事故後の対応等の報告がありました。

## 〈保育園協会の新規事業〉

### 1. ホームページの開設進捗状況について

作成中のホームページ画面をスクリーンに映しながら、ホームページの内容について説明がなされた。構成としては、トップページ、法人案内、お知らせ、広報誌、協会会員園についてとなっている。お知らせについては、会員園のみが見ることができるお知

らせのページがあり、IDとパスワードによるログインが必要となる。また、求職者のための求人紹介ページも用意してある。

承認されたため、現在すでにホームページは公開されている。URLは以下の通り。

<https://www.hachihokyou.jp/>

### 2. 求人紹介について

協会のホームページ上に、求職者用の求人紹介ページを設けている。登録制となっており、登録した求職者が、ホームページ上で、協会会員園の求職情報を見ることができる制度となっている。

各園においては、求人票を協会事務局へ送っていただくことで、求職情報を作成して公開したい。その際、就職祝い金制度を利用するか、しないかを園で判断し、求人票に明記することとなる。就職祝い金制度を利用される園については、その利用規約等をご確認いただきたい。また協会の求人紹介システムで就職者が決まった場合は、協会に各園が手数料1万円の支払いが発生する。現在、各関係において最終調整を行っているところ。令和2年度から運用していきたいと考えている。

その後、各部会・各団体報告が行われた。八王子市保育政策会議の報告の中で、入所状況について説明が行われた。全市の民間保育園の中で、弾力化を行っている園が41園、定員通りの園が7園、定員に達していない園が42園となっている。年齢別では、0歳児が76名欠員、1～3歳児は定員に達しており、4歳児以上は103名の欠員であり、合計で見ると29名の欠員となっている。八王子市も少子化の影響が出てきている模様とのこと。

最後に光宗副会長より、閉会の辞として、次回は、来年1月28日（火）全体会・新年会となる旨の話があり、閉会となりました。（千原）

# シリーズ 私の保育園

## まや保育園

「あっという間の一年」

副園長 滝澤 秀明

子どもたちの日々の保育に携わり、運動会やお遊戯会などの年中行事に慌ただしく対応していると、一年は本当にあっという間だなあとつくづく感じます。子どもの成長があっという間なのと同じで、月日が経つのも正に「光陰矢のごとし」といったところでしょうか。

この記事を書いているのは12月の暮れですが、2019年もあと数日で終わりとなり、2020年の幕開けとなります。保育園で働いていると、毎年新しい園児が入園してきますのでいつも子どもは0歳～6歳ですが、自分は毎年1歳ずつ年をとっていつの間にかです。諸行無常とはこのことでしょうかね。

当園では、現在120名の子どもたちをお預かりしています。みんなそれぞれに個性があり性格もみんな違っていています。中には世話が焼ける子もいて、いら立っている職員を見ることもあります。そんな時に私は「30年後にはこの子たちが日本を背負っていて、自分たちは背負われている側だよ」と言うことがあります。

今はみんな小さく、自分のことですら手伝ってあ



げないとできない子たちですが、時間があっという間に経つように、子どもたちもあっという間に成長し、成人し、そして社会に巣立っていきます。そう、30年後に日本を背負っているのは彼ら、彼女らなのです。

そんなことを考えていると、「子育ては国作りそのものなんだ」ということが良く分かります。

たくさん遊び、いろいろなことを経験して過ごした幼少期が、これからステップアップしていく子どもたちにとっての「生きていく力」になればと思います。

長いようであっという間に過ぎていく月日、一日一日を大切にそして「子育ては国作りそのもの」という気持ちを持って今日も子どもたちと一緒に遊びたいと思います。



## めじろ保育園

めじろ保育園はこのようなところです

園長 柘澤 章次

京王線めじろ台駅から徒歩10分ほどのところに位置し、昭和50年4月に開園致しました。

当初はめじろ台の開発、分譲に対しての子どもの受け入れでしたが、現在はめじろ台分譲地内からの通園は少なくなり、めじろ台を中心としたドーナツ型の通園圏になっています。恵まれたことに周囲には多数の公園施設などがあり、散歩などに際しては何処に行こうか迷ってしまうほど充実しています。住宅地内にあるため静かな環境ですし、各軒先にはいろいろな花や木が植えてあり四季を通して楽しませてくれます。開園してから40年以上が経過し近年、親子2代に渡っての通園、卒園があります。めじろ台は八王子市の中でも高齢化率の高い街になっております。そこで保育園の隣地に平成6年にデイサービスセンターを創設しその後、支援センターなどを増設し現在に至っております。

デイサービスセンターの利用者の方と交流を行う機会に恵まれたことによって、子ども達もおじいちゃんおばあちゃんとの交流を大変楽しみにしており、お年寄りの方もまた大変楽しみな時間になったよう



で、核家族化が進み、日頃お年寄りとの接点が薄れてきてしまった今の子ども達に、少しでも多くの触れ合う機会を作り、お年よりから多くのものを学んでいって欲しいとともに、お年よりは子ども達からエネルギーをもらい、いつまでも元気で長生きしていただきたいと願っています。

開園からこの4月で45年を迎えることもあり、周辺施設の建替え等も進み「古い園舎」となっており、現在改築に向けて動き出しているところですが、昨今の建築費の高騰等の問題もあり（一番は資金面ですが）頭を痛めているところです。





# ボウリング大会を終えて

社会福祉法人多摩養育園 光明第三保育園

今回、ボウリング大会で優勝という結果で本人たちが一番驚いています。優勝どころか、ボウリングで良い結果を残そうという気持ちよりも、ただただ楽しみに来たという感覚だったのです。

私たち光明第三保育園は、職員同士の仲が本当に良いのです。先輩、後輩関係なく、思ったこと、考えたことを伝えあうことが出来るそんな素敵な環境です。保育で大切なことは環境設定や色々な配慮事項の前に、保育者同士の良好な人間関係だと思えます。保育者である大人が笑顔でないと、子どもも笑顔になれないからです。他園の職員が来ても「本当に雰囲気が良いね」と言ってもらえます。本当に誇れるところです。

今回参加した4名も普段通りにワイワイ騒ぎながらボールを投げていました。ストライクをとっても、



思いっきり外しても大笑いで大盛り上がりでした。隣のレーンの人にも「うるさくてすみません」と声を掛けたほどに。しかし、今考えてみればそのチームワークの良さ、笑うことでリラックスして投げることが出来ていたのかもしれない、と思います。思い切り楽しんだ結果が優勝ということで驚きましたが、本当に嬉しかったです。ボウリング大会が終わり、園に報告しようと電話を園にかけると、もう皆が知っていました。どうやら他園の園長先生が優勝したことを伝えてくれていたようで、その知らせを聞いて園が大盛り上がりだったとのこと。次の日職場に行くと「すごいね！」と皆が喜んでくれました。

楽しむときは思い切り楽しんで、喜ぶときは皆で喜び合って、そんな面白い大人がたくさん揃っている職場で保育が出来ていることに、改めて喜びを感じました。これからも思い切り笑い、時には意見をぶつけ合いながら、大人も子どもも笑顔で楽しく保育をしていきたいと思えます。ボウリングはそこまで上手くないので、来年2連覇目指していることは大きい声で言わず、胸に秘めておくことにします。ありがとうございました。

(文谷剛史・檀陽一郎・茂木貴文・河田ゆかり)

## 編集後記

2020年…口にしてみるとリズム感があり何か特別良いことがありそうな、そんな響きの新年を迎えました。今年オリンピック・パラリンピックイヤーでもあり、トップアスリートたちの鍛錬された技、国境を越えたスポーツの祭典が待ち遠しいところですが、スポーツや文化を楽しむのも平穏な日々あってこそ。2020年が、子どもたちにとって安心して過ごすことのできる健やかな一年でありますように。本年もどうぞよろしくお願いたします。

(板野)